

表 1.2-3 本評価調査の評価の枠組み（続き）

評価視点	評価項目	評価内容	情報入手手段	情報入手先
III．結果 ・ 1996～2000 年の間にボリビアの社会経済指標がどのように推移したかによって有効性を測る ・ 擬似プログラムによりどのような社会経済的インパクトがボリビアに発生したか	A.有効性 擬似プログラムがどの程度目標を達成したか	(1) 基礎生活分野に関する様々な社会経済指標 （例）社会サービスへのアクセス度 安全な水へのアクセス度 上下水道サービスを受ける人口率など (2) 受益者の観点からの目標達成度	(1) 1) ボリビア政府の基礎生活分野関連省庁 2) ボリビア統括基金、生産性社会投資基金資料 3) 世界銀行資料 4) 米州開発銀行資料 5) USAID 資料 6) PAHO 資料 7) UNDP 資料 (2) 現地 NGO や現地有識者との聞き取り調査 (3) 受益者調査、フォーカス・グループ・インタビューの実施	(1) 1) ボリビア政府の基礎生活分野関連省庁 2) ボリビア統括基金、生産性投資基金資料 3)～6)各国際機関ホームページ、聞き取り調査 (2) 現地 NGO、現地有識者 (3) 受益者調査、フォーカス・グループ・インタビューなどの結果
	B.インパクト	(1) 女性の地位向上などの社会的影響 (2) 環境への影響 (3) 他のドナーのプロジェクトへの影響 (4) 我が国の ODA の知名度への影響	(1)、(2)ボリビア政府の基礎生活分野関連省庁への聞き取り調査、受益者調査 (3)他のドナーへの聞き取り調査 (4) ボリビア政府の基礎生活分野関連省庁への聞き取り調査、受益者調査 現地 NGO や現地有識者との聞き取り調査	(1)、(2) ボリビア政府の基礎生活分野省庁 (3) 他のドナー (4)ボリビア政府の基礎生活分野関連省庁、受益者、現地 NGO、現地有識者